令和元年度　一王寺遺跡現地説明会

令和元 年 8月 10日 (土) 10 : 00から
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

【一王寺遺跡とは】

本遺跡には、縄文時代前期から中期の円筒土器文化期（今から約 6,000 年～ 4,300 年前）を中心とした大きな集落 (ムラ) が広がっています。昭和 32 年 (1957) に中居遺跡・堀田遺跡とともに「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定されました。

遺跡は、32 万 6 千㎡の大きさがあり、新井田川に面する標高 20mから 40mの台地と、標高 100m 前後の丘陵に立地しています。台地上のゆるやかな斜面に竪穴住居や捨て場が広がり、遺跡南側の沢にも捨て場がつくられています。背後の丘陵は、集石遺構や土坑墓などがあり、祈りや弔いの場所として利用されていました。

【調査にいたる経緯】

八戸市教育委員会では平成 6 年から 29 年まで、断続的に調査を行ってきました。これまでの調査は遺跡の範囲を確認することを主な目的としていたため、調査面積は全体の約２％にとどまっています。このため、遺跡の全容についてはわからないことが多いのが現状です。特に重要な場所と考えられる、昭和 32 年に国の史跡となった範囲 (第 1 図の緑色の破線) は、大正から昭和初期のものを除いて、平成 26・28 年の約 660 ㎡のみしか実施していません。

このため、今年度から令和６年 (2024) まで６カ年の予定で、かつての史跡指定地を中心に内容確認のための発掘調査を行うこととなりました。

【今年の調査概要】

所 在 地：八戸市大字是川字一王寺 1,2-2,2-3,2-5
調査目的：史跡の内容確認調査
調査期間：令和元年 7 月 4 日 (木) ～ 9 月 6 日 (金)（※予定）
調査面積：約 400 ㎡
検出遺構：縄文時代前期中頃から後半（今から約 6,000 年～ 5,500 年前）
　貝塚、遺物包含層 (捨て場)、フラスコ状土坑 (貯蔵穴)
　縄文時代中期後半（今から約 4,500 年～ 4,000 年前）
　竪穴建物跡、フラスコ状土坑 (貯蔵穴)、遺物包含層 (捨て場)
　縄文時代後期初めから前半（今から約 4,000 年～ 3,700 年前）
　集石遺構
出土遺物：縄文土器（早期・前期・中期・後期・晩期）、弥生土器（早期）、続縄文土器、土師器（奈良・平安時代）、土製品（土偶・土製耳飾り・キノコ形土製品・ミニチュア土器・円盤状土製品）、剥片石器（石鏃・石槍・石匙・石箆など)、礫石器 (磨製石斧・磨石・台石・半円状扁平打製石器など)、骨角器（釣針・銛頭未成品)、動物遺存体（ニホンジカ・サメの歯など）

【今年の調査成果】

①縄文時代前期の貝塚の広がりを確認

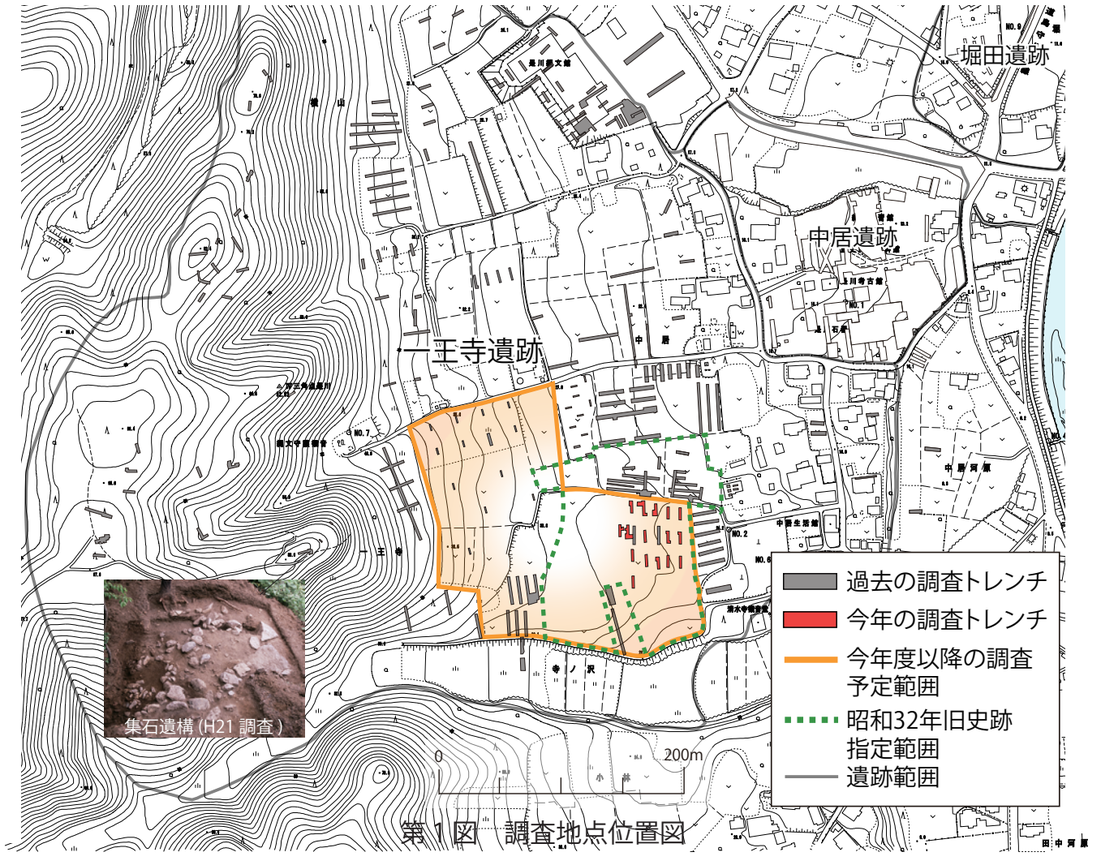
平成 26・28 年度に発掘調査を行った縄文時代前期の貝塚が、あぜ道を挟んだ今年の調査区まで広がっていることがわかりました。

②縄文時代中期後半の集落を確認

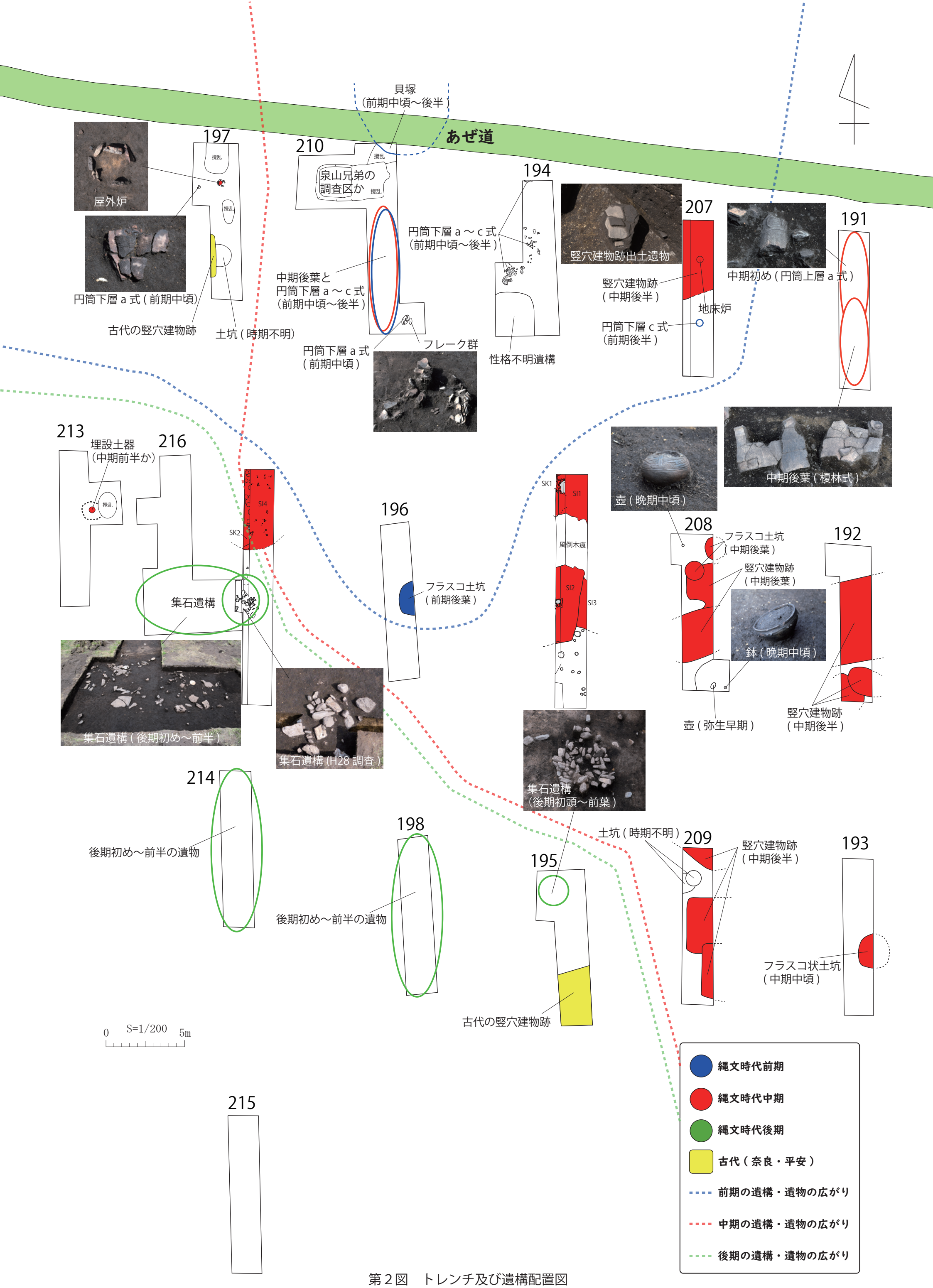
縄文時代中期後半の複数の竪穴建物跡や土坑が重なりあってみつかったことから、同じ場所に繰り返しつくられていることがわかりました。また、この時期の遺構・遺物が最も多く検出されており、この時期に本遺跡のムラが最も大きくなったと考えられます。

③縄文時代後期初めから前半の集石遺構を確認

縄文時代後期初めから前半に集石遺構 (祭祀遺構) がつくられます。また、遺物の分布から、この時期になると遺跡の中心が南西方向へ移っていくことがわかりました。



第１図　調査地点位置図



第２図　トレンチ及び遺構配置図